

小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

毛細血管って、なんなの



血管の中でも、細かく枝分かれして全身に広がっている、目に見えないほど細い血管のことさ。

体のあらゆる部分に、あみの目のように広がっている毛細血管

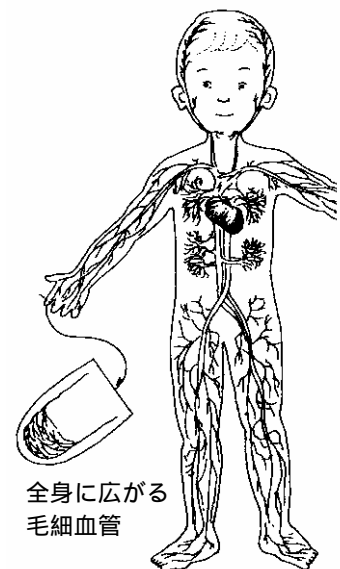
指などをうっかり切ったとき、血管が近くに見えないのに、しばらくすると血が出てきます。これは、体のあらゆるところに、毛細血管があみの目のように広がっていて、そこから血が出てきたのです。毛細血管の太さは、およそ0.0008mmという細さですから、けんび鏡でなければ見えません。

心臓が、ぎゅっとちぢんで血液を送り出す血管は太いけれど、体のあちこちでいくつも枝分かれをし、血管はだんだん細くなって広がっていきます。体の各部分に栄養や酸素をわたすのは、あらゆるところに広がっている、目に見えないほど細い毛細血管の血なのです。各部分でできた二酸化炭素を受け取った毛細血管は、集まってだんだん太くなり、心臓にもどっていくときは、太い血管になっています。

酸素と二酸化炭素の交かんは、毛細血管で行われている

体の中では、心臓がポンプの役目をして、血液を全身に送り出しています。心臓からおし出される血液が流れる血管を動脈、全身から心臓に入ってくる血液が流れる血管を静脈といいます。

心臓にもどってきた二酸化炭素をふくむ血液は肺に送られ、肺の毛細血管を通して、吸いこんだ空気中の酸素と二酸化炭素が交かんされ、心臓にもどってきます。この酸素をふくんだ血液は、また、全身に送り出されていきます。



全身に広がる
毛細血管

もっと知りたい人へ：「血管がないところをけがしても、なぜ血が出るの」も見てみよう。